

文京区

男女平等センター だより

2008
No.60

2008年12月10日発行
発行/文京区女性団体連絡会 会長 大川米子
〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号
TEL.03-3814-6159 FAX.03-5689-4534

文京区男女平等センターは文京区女性団体連絡会(文女連)が
指定管理者として管理・運営しています。

BUNKYO GENDER EQUALITY CENTER



Topics

◆ 特集 ◆
第23回文京区男女平等センターまつり
きのう きょう あしたへ
家庭と仕事
笑顔の生まれる平等社会!

Contents

メイン展示「ワーク・ライフ・バランス」	2・3
基調講演「篤姫〜わたくしこと一命にかけ〜」	4
「センターまつりに参加して」	5
ジャズコンサート「世界の楽器シリーズ」	6
まつりシネマ	7
まつり資料コーナー	8
2008日本女性会議とやま	9
プラスワンセミナー	10
相談室ご案内/書籍紹介	11
お知らせ	12

メイン展示

「ワーク・ライフ・バランス」



◎仕事とくらしの調和

1. ワーク・ライフ・バランスとは

誰もが、仕事・家事・育児・地域活動など、様々な活動を自分の希望するバランスで実現できる状態の社会です。

2. ワーク・ライフ・バランスが実現した社会は

- ① 就労による経済的自立が可能な社会
- ② 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会
- ③ 多様な働き方・生き方が選択できる社会

このような社会は男女共同参画社会の実現につながります。男女や、正規・非正規雇用の格差がなくなり、均等な労働環境がつけられます。働いていても生活できないワーキングプアもなくなるでしょう。男性の長時間労働がなくなり、男性も子育て、家事、地域活動に参加できるようになります。過労死もなくなるでしょう。子育て、介護をする人も、公正な労働待遇のもとで、多様な働き方が選択できます。

3. なぜ、今、ワーク・ライフ・バランスが必要なのでしょうか

男女平等を進める法律の整備は一定前進しましたが、

現実には職場・家庭・地域でも性別役割分担意識が残っており、家庭責任の多くは女性に負わされています。仕事と子育ての両立が困難で出産後退職をよぎなくされている女性も3割をこえ、男女を問わず親の介護のために退職する人も増えています。このままでは日本の経済・社会の維持が困難になっています。

(1) 急速な少子高齢化社会の進行

2007年の合計特殊出生率は1.34%、人口も2004年をピークに減少に転じました。2025年には

国立社会保障・人口問題研究所中位推計

	「A」 20才～59才 (在日外国人を含む)	「B」 70才以上	B/A
2005年	6898万人	1824万人	26.4%
2010年	6523万人	2119万人	32.5%
2015年	6243万人	2417万人	38.7%
2020年	6073万人	2781万人	45.8%
2025年	5840万人	2932万人	50.2%
2030年	5487万人	2934万人	53.5%

働く人2人で1人の高齢者を支える事になります。人口減少に伴い、労働人口が減少し、働いて税金や年金などの社会保障料を納め、旺盛に消費する現役世代が年々減少しています。その対策は女性

の就労を増やすこと、仕事と家事・育児を両立できる職場環境、誰でも入所できる保育所など社会的基盤の充実が急務です。

(2) 働き方がおかしい

「夫は仕事、妻は家事・育児」の考え方は男性の中でも過半数の人が反対し、共働き世帯も過半数を超えました。しかし女性の非正規雇用は52.8%で、多くの人が派遣やパートなど不安定雇用の状態で働いています。30歳男性を中心に週60時間を超える長時間労働が増え、過労死や精神疾患が増えています。新たな経済危機の下で派遣労働者の解雇が自立を始めました。

(3) 貧困化(所得格差の拡大)・女性の貧困化

非正規雇用の増大は、ワーキングプアと言われる低所得者層、社会保険にも入れない、結婚もできない、住宅もない、ネットカフェ難民と言われる人たちを生み出しています。

年間給与では、200万円以下の女性は42.8%、男性は17.9%、300万円以下では、女性は65.6%、男性は20.3%です。

賃金の格差

正社員男性 時給 2010円 (100%)	パート男性 時給 1057円 (52.6%)
正社員女性 時給 1349円 (67.1%)	パート女性 時給 940円 (46.8%)

平成19年 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成。



4.ワーク・ライフ・バランス憲章(2007年12月)の行動指針数値目標

数値目標	2007年	10年後(2017年)
第1子出産前後の女性の継続就業率	38.0%	55%
女性の育児休業取得率	72.3%	80%
男性の育児休業取得率	0.50%	10%
6才未満の子をもつ男性の育児・家事関連時間	1日60分	2時間30分
週60時間以上働く労働者の割合	10.8%	半減
年次有給休暇取得率	46.6%	完全取得

正社員時間当り給与は、女性は正社員男性の67.1%。パート女性は正社員男性の46.8%です。女性の4割を超える人が200万円に満たない低い給与です。女性の貧困化が進んでいます。

◎女性と人権

(1) 人身売買・児童ポルノは人権侵害

毎年多くの女性や子どもたちが人身売買により日本に入国しています。彼らは商業的、性的搾取目的で日本へ売られたり、日本を通過してさらに別の国へと連れて行かれたりしています。人身売買は国際的な犯罪であり、貧困・経済格差・男女差別・児童労働といった多くの問題を含んでいます。映画「闇の子どもたち」では、人身売買、幼児売春、臓器売買などを取り上げ私たちに大きな衝撃を与えました。

※文京区議会は「人身売買被害者保護法の早期成立を求める意見書(仮称)」を政府、国会に対し6月25日付で提出

(2) スクールセクハラは人権侵害

教師によるわいせつな行為、セクハラ行為が後を絶たず、男女を問わず児童、生徒(幼児から大学院生まで)の心と体に大きな悪影響をあたえています。マッサージュと称して体を触られたり、メールで性的な画像を送られたり、更衣室やトイレにビデオカメラを付けられ盗撮されるなど、誰でも被害者になる危険性が多くなってきました。

性差に関係なく男女平等の教育こそが最大の防止策になると思います。

◎まとめ

現在、日本の経済・社会を持続・発展させるためには、様々な困難な状況が生まれています。人口減少とりわけ労働人口の減少は、消費の縮小につながります。派遣・パート等の非正規雇用の増大、男女や就業形態による賃金、労働条件の格差の広がりは貧困化の大きな原因となり、明日への不安を持つ人々を増やしています。

少子高齢化社会への急速な進行も大きな問題です。政府は2007年12月、「ワーク・ライフ・バランス」憲章と行動指針を発表し、安心と希望のある社会像を示しました。政府は「5つの安心プラン」高齢者・医療・子育て・非正規雇用・厚生労働行政の信頼回復を出しました。

私たち女性にとって仕事と子育ての両立は長い間の念願でした。しかし多様な働き方を選択できる社会は、賃金や労働条件の公正・均等な待遇がなければ実現しません。誰でも入所できる保育所等子育て支援環境の整備も急がれます。長時間労働をなくすためには法律の規制が必要になります。

男女差別は女性の人権問題という視点から、毎年人権問題を取り上げてきました。アジアで想像もできないような幼児売買・臓器売買に、日本人が加害者の一人になっていることに目をさぶるわけにはいきません。

この展示が「ワーク・ライフ・バランス」を表現する社会をめざして一歩一歩努力し、明日への希望と安心をつくる力になることを願っています。

(メイン展示担当)

「篤姫〜わたくしごと一命にかけ〜」

講師 鹿児島大学 法文学部教授 原口泉氏



原口泉 はらぐちいずみ
1979年鹿児島大学法文学部に赴任、1998年より教授。専門は日本近世・近代史
NHK大河ドラマ「翔ぶが如く」(1990年)、「琉球の風」(1993年)、「篤姫」(2008年)の時代考証を担当

今年のセンターまつりの基調講演は、現在放映中のNHK大河ドラマ「篤姫」の時代考証を手掛けた

原口先生の講演という事で、会場にいっぱいの方がいらしてたいへん盛況でした。先生はその「時代考証」を、事物が歴史的事実に合致するかを調べることはもとよりとして、歴史の中にひそんでいる人間性を発掘して、ドラマとしての感動をもたらすことを期していると言われました。先生のお話は皆さんの関心の高い「篤姫」に出演中の俳優さんのエピソードから、鹿児島島の風土やそこで活躍した数々の武士たちの話まで多岐にわたり、深い知識と豊富な話題で時間を忘れるほどの楽しい講演でした。

天璋院篤姫は、歴史に語り継がれる女性。15代統



いた徳川家の13代将軍家定に嫁ぎ、幕末の動乱期に歴史を動かす大きな役割を果たした女性です。

篤姫ことお勝は、薩摩藩主一門の今和泉領主島津忠剛の長女として生まれ、19歳の時藩主島津斉彬の養女(幕府への届けは実子)となり名前を篤姫と改め、その後右大臣近衛忠熙の養女という形を整えて、22歳で江戸城大奥に輿入れしました。島津斉彬からは將軍のお世継ぎという密命を与えられましたが、一年半で夫に先立たれた天璋院となりました。家定の後継者となった14代將軍家茂の母となり、公武合体の政略として、孝明天皇の妹である皇女和宮を家茂の嫁として迎えることになりました。

天璋院は、大奥1200人の女性を束ねる一方で、將軍家の後継問題に係わる政争に巻き込まれたりしましたが、開田を迫る外国の圧力と倒幕勢力の拡大という動乱の中で、力の無い將軍や頼りにならない重臣たちに囲まれながらも、命をかけて嫁ぎ先の徳川という「家」を守るうとした、意志の強い自立した女性でした。中でも官軍の攻撃で江戸中が火の海になる危険が迫った時に、官軍の前線司令官に1500字に及ぶ手紙「私事一命にかけ」の嘆願書を送り、江戸城の無血開城を実現し江戸市中を戦禍から救ったことは特筆に値する出来事でした。

封建制度が確立した男子中心の社会の幾多の制約の中で、女として、嫁として、母として、自らの意思を買って力強く生きた篤姫の生涯は、ドラマとして今後どのように展開して行くのか、楽しみにしている方も多いのではないのでしょうか。

(荒尾 良)

